

信友

信友会事務局

東京都渋谷区東1丁目32-13
ビル・ナミキ橋
電話 03-3407-1192

最後の悲劇

信友会会長 田中邦明



終戦の玉音放送が終った時各地で詔書必讀か、抗戦継続かの問題で議論が起った。厚木航空隊のように激昂して悲劇を起した部隊も少なくなかったが、水戸の航空通信学校もその一つであった。

放送が終った時特別幹部候補生隊では、中隊長岡島少佐(53期)を中心に幹部全員集り、今後の行動について議論が交わされた。東京では既に戦争継続のため部隊が激昂しているとの情報もあり、態勢は次第に国体維持のためには戦争継続より他に道無しという方向に傾き、激昂部隊に合流すべく岡島少佐を長として臨時大隊を編成し、出動準備を開始するに至った。一度その時、中隊の林少尉(候補出身)が血相を変えて中隊に突込んで来て(16日夜半)「たった今、中隊の行動に強く反対していた大隊長田中少佐を射殺して来た。直ちに行動開始」と岡島少佐に

部の中島中佐が加わり、抗戦継続か撤収かで激論の最中であつた。中島中佐と林少尉は最後迄抗戦継続を主張して譲らなかったが、石原参謀、岡島少佐他多数が撤収に賛成し、事態は一旦多量な解決の原案で、外部からの参加者も石原参謀以下全員引揚げて行った。

その後撤収に反対を唱えた林少尉が拳銃を手にして絶対抗戦を叫び続け再び立籠る態勢を取らせた。これを聞いた石原参謀は再び上野に引返し、再度の説得をせんと美校を閉鎖して車を下りたところを、仁王立ちしていた林少尉が駆け寄りいきなり拳銃三発を放ち、石原参謀は無念その場に斃れてしまった。異様な銃声を聞き杉少佐(53期)は、荒牧中尉が、荒牧中尉が

飛出して来て凄惨な現場を目撃し、杉少佐が抜刀して林少尉を襲撃斬りにし、続いて荒牧中尉が二太刀でその首を刎ね落した。斯くて部隊は正気になり、遺体を雑木林の中で火葬し、無事水戸へ引揚げて事態は収まった。学校に着いた翌日、独断部隊を動かし、謀反を起した罪を問われて学校長から自決を命ぜられ、岡島、杉少佐、荒牧中尉は次々に割腹自決し悲劇は終末を告げた。

思うに陸軍最後の日の真舞台でこの様な事件が起き、石原参謀他八人の尊い命が散華したが、何れも国の将来を思う一念に変わりは無い。心から八志の冥福を祈って筆を擱きたい。

新しい兵器の研究開発について

飯田正雄

一、兵器と部品の進歩のギャップ
兵器が複雑化し、その開発には十年近い歳月を必要とすることは常識化している。一方これらはシステムを構成する部品材料等の進歩は日進月歩であり、例えばメモリーとして使われているDRAMは四年周期で次の世代に進んでいる。十年前に第一次試作品を計画した時は256キロビットのDRAMを使っていたが制式化の段階では4メガビットのDRAMが利用されるようになるので開発担当者は大に頭を悩ましていた。

二、信頼性と整備性の問題
信頼性は兵器体系に対し設計段階より織り込まれるべきものであり、実用しうる信頼性を得るためには、それを構成する機器や部品に対し苛酷な信頼性を要求されることになる。しかし乍ら日本の電子機器に使用する電子部品の信頼性は極めて向上し、個々の故障発生数は百万時間当たり一個以下になっており、このような部品を使用して作られた

参議院選挙の必勝を期して 本年夏再び国政壇上に登場

参議院議員 永野茂門



信友会の皆様方には、平成四年の平和な正月を御家族団圓のもとに、迎えられたことと拝察し慶賀に堪えません。昨年も国際情勢は激動の連続でありました。今年こそ平和な一年でありますよう願するものであります。国内情勢も国際情勢の影響を受け、決して平穏な一年ではありませんでした。これまた今年こそ世界中の期待にこたえるべき国際国家日本としての役割を果たす一年でありたいと念願してやみません。

さて、今年は参議院選挙の年であります。不肖私は、この選挙に必勝を期すべく昨年来より全国遊説を続けて参りました。

た。御承知の通り参議院は、与野党逆転現象のため、正常な国会運営がなされておられません。今年の選挙でこれを是正するため一歩でも前進し正常な状態に復帰させたい執念に燃えております。今年も正月以来国会の会合を縫って全国遊説活動を展開いたしております。全国各地で旧知の信友会の皆様方にお会いできることが多岐に私にとりまして一服の清涼剤でもあります。

安全保障就中防衛の問題は国家の基本問題であり、自衛隊の精強がその中心課題でもあります。装備の近代化はもとより、人的戦力の確保、このための魅力化施策特に生活勤務環境、給与、処遇改善等の具体的な施策に真摯に取り組まなければならない。信友会の皆様方の限らないご意見を祈りながら私に絶大なご支援を賜りますようお願い申し上げます。

叙勲 おめでとうございます。

勲三等旭日中綬章	塚本勝一(元西方総監)
勲四等旭日小綬章	配野秀一(元通処副処長)
"	森 繁實(元施設庁通信課長)
勲六等瑞宝章	後藤清治(元北通群)
"	増井 清(元10通大)

28周年総会・懇親会

一、日時 平成4年2月22日(土) 16時より
二、場所 はあといん乃木坂(健保会館) 地下
港区南青山一丁目四
電話 〇三三四〇三三〇五三二
(地下鉄千代田線の乃木坂駅上)
三、会費 八〇〇〇円(会場費は別途)

【お願い】
出欠について同封のはがきで御返信下さい。

信友会28周年記念の総会及び懇親会を左記のように実施いたします。また懇親会は恒例により、現役と共催で行います。会員の皆様の奮っての御参加を希望いたします。

三、環境問題と環境試験
米軍が今度の対イラク戦争で勝利を収めた裏には航空機や戦車、高湿、高湿下において、猛烈な砂塵の中でその機能を完全に果たしたことが大きな原因として取上げられている。米軍は全地球的な環境(地上数百キロまで含む)を平時より詳細に調査し、環境試験においてはこのような極限的環境に予測された期間暴露し、

これに耐えられるか試験するようにならなければならない。このような環境条件の調査や、環境試験の費用は極めて高価であるが、このような努力が有ればこそ中東戦争の勝利が得られたのである。

四、新しい兵器の出現
(一) ロボットの利用
無人航空機や無人戦車、これを要撃するための防空ミサイルや対戦車誘導弾もロボットの考え方が多い。最近野戦の戦術員の代替を目的としたロボット兵が米国などで研究されている。
(二) レーザー殺人光線
電子ビームの密度を高めて指向性を向上させることにより達成している。
(三) 電磁砲
電磁力を超伝導を利用して強力に、この力を利用して超高速の弾丸を発射する。
(四) ステルス性能の向上
レーダー反射波を吸収する塗料や膜を機体表面に添付する。今回の中東戦争で米軍が使用した。ECCM性能の向上
時間的に変化する可変周波数送信機とこれと同期する受信機により通信を行う。殆ど妨害は不可能と言われる。

部隊等だより

北海道地区補給処 通信部

なお通信部長室を初め通信部事務室等施設の内装を一新しました。信友会の皆様の御来仙をお待ちしております。
(通信部長)

関西地区補給処 通信部

平成三年度総合火力演習も無事終了し、富士学校管理部通信課は、本年末、六名定員が増加し、二六名体制となること予定されております。来校されるOB諸兄等から通信課は何をやっているのかと御質問を受けますので、その一端を紹介致します。

富士学校 管理部通信課

防衛電子科は、高射学校第一ロケット実験訓練隊ミサイルモニター科が高射学校の改編及び通信学校のミサイルモニター科の高射学校への移管により、対空戦闘指揮装置の操法、部隊整備及び野整備教育を統合して教育する科となり、昭和四十四年防衛電子科と名称が変更され現在に至っております。

高射学校 防衛電子科

基本性能を段階的に確認し、昨年は七月には熊本地区にシステムを展開、酷暑地性能等を試験した。この後四年度一/四半期まで、北海道及び関東地区においてシステム総合性能等を確認し、2/四半期以降の陸自が実施する実用試験に申し送る予定である。
(陸開四室担当者)

技術開発官補付 第六開発室

技本陸開六室は主として光波・電子器材を開発しています。皆様になじみ深い監視装置、対砲追跡レーダー、戦場監視レーダーは代表例です。最近の電子技術の発展は陸開六室の仕事の範囲を広げています。旧来の最も関係が薄いと思われていた火砲、戦術車両とさえ、現在では電子技術なくして機能発揮は困難です。我が室はこの分野、すなわち装備品のエレクトロニクス化を推進しています。例えば空自のサイトを防護する自動ガンシステム、普通科隊員の代りをする遠隔操作近接戦闘システム等の電子部門は陸開六室が開発担当です。従来の任務も重要で、現在新対砲レーダーを試作中です。また対空戦闘のあり方、ロボットの応用等の研究も行なっています。どの分野についても自衛隊の戦力向上のため全員張り切っています。
(前任)

防衛施設庁 通信課

防衛施設庁では七十一名の者が通信建設に直接従事しています。この内二十五名が陸上自衛官です。世の中は好景が続く、自衛隊においても、指揮・統制・通信・情報機能の充実、隊員の処遇改善が重点施策として推進されています。誠に喜ばしいことですが、その裏で施設建設にたずさわる者は大変です。全国各地の施設局において通信工事の設計・積算に当る者の仕事量は、ここ五年間で約三倍となり、一人当りの年間経費執行額

東北地区補給処 通信部

伊達政宗の城下町仙台は政令指定都市となりました。東北新幹線の東京駅乗り入れも実現し国際都市をめざしています。また仙台は七ヶ、東に景勝松島、西にスキーの蔵王、南に相馬野馬追、北にけしと温泉の鳴子と四季折々豊かな環境に恵まれております。このすばらしい仙台において通信部は「積極支援」をモットーに日夜業務に精励しております。特にレーダー等の整備数の増大に伴う各部隊からの緊急補給整備要請に即応するため通信部では万全の態勢を敷き各部隊から絶大な信頼を得ております。

九州地区補給処 通信部

通信部は昨年八月第十九代部長として中古 佐を「ニューザー」の立場に立った親身のある兵站支援と、「融和団結」をモットーに西部方面隊に対する通信電子器材の兵站支援に日夜邁進しているところであり、今年度は、島原の雲仙普賢岳噴火や、台風の相次ぐ九州直撃等、自然界からの特別状況付与もあり多忙な毎日です。一方、駐屯地の近傍に位置する「吉野ヶ里遺跡」は、その規模の大きさと日本で最古・最大規模の墳

装備開発実験隊 電子機器科

福岡富士の裾野、標高約八五〇mに装備開発実験隊があります。陸自装備品の実用性評価のうち私共電子機器科では通信電子機器を担当しております。昨年来から科総力を挙げ師団新通信システム(DICS)の技術試験を支援するとともに通信学校等と協力して本年度から実施される実用試験の準備を先行的かつ積極的に推進しております。科発足以来初めてのWAC隊員を迎えておりますが、若い隊員を

技術開発官補付 第四開発室

陸開四室では、次代の野戦におけるC3Iの通信基盤を担う師団新通信システム(DICS)を昭和六三年・平成二年度に試作し、現在、陸自及び試作担当全社の支援を受けて技術試験中である。試作経費約一四三億圓、シェルタ四〇台以上という、従来の通信装備の規模をはるかに超えた開発であるが、これまで大きな問題もなく、順調に試験を重ねている。技術試験は平成二年度からこれまで、各装置及びサブシステムの

北海道でのゴルフの思い出

浅野 仁

は約三億圓です。処遇改善どころではありません。業界の人手不足も深刻で工期もままなりません。スポンサーたる自衛隊等の苦情もどきどきです。施設庁の通信職員ががんばっています。自分の設計した通信施設が、我が国の平和と安全の確保に大いに寄与することを確信して。
(木部 記)

私は、北海道・千歳に62・42・3の3年間勤務しました。初めての北海道勤務でしたので、その時楽しんだゴルフが大変印象的で懐かし思い出となりまし。天気の良い休日には早起きをしてゴルフ場に直行し、車で六時半ゴルフコース。キャンセル待ちでも、遅くとも、八時頃までにスタート出来る。北海道の多くのコースは、昼食をとることなくラウンドします。12時前後にはホール・アウトしてしまします。従って、土、日の連チャンでも、体力的に全く問題ありません。例年、ゴルフ場のオープンには4月初旬です。まだ、コースには、残雪がありますが、芝生は不思議に青々としていますが、4月下旬から5月初旬には木々が一斉に芽を吹き、辺り一面が新緑となり独特の清々しさを感じます。この新緑が秋になるまで保っているように見えます。梅雨のない6・7月は特に空気がからりとしていて爽快です。この頃になると、北キツネが丸々と太り、毛の艶も鮮やかとなり愛嬌よく時に私のナイス・ショットを期待しながら応援をしてくれ、また、子連れキツネが茶屋でエサ

を持ってダンゴを投げてやると、口にくわえて森の中へ消えていく。人なれた様子ですが、エヒノコックス菌を持っているので、手で触れることは危険とのこと。8月は暑い日もありますが日陰は涼しくて、全く、別世界のゴルフです。それは汗をかかないのに、終わった後のビールは旨い。スコアアの良しときは、一段と旨い。9月は特に空気が澄んで北海道らしい雄大な大自然を眺めることができます。10月はブレイが出来る最後の月です。紅葉は素晴らしい奇麗ですが、その終わりに、打ったボールがコース一面に落ちた枯れ葉に隠れてしまつて、グリーン上では枯れ葉が舞って仲々パッティングができません。10月の終わりにはもう雪が降り、朝、快晴であっても、近頃は猛烈吹雪となり、あっという間に一面真白となり、打ったボールを見失い、プレー不能となります。だから、この頃の服装は、スキーに行くような防寒服に帽子を用意して行く必要があります。気象の変化は高山のように早いので注意です。11月は雪がなくて晴れていても、寒風が吹き荒れ寒さのためゴルフになりません。ただ、来年までもう出来ないかと思うとハーフでも廻りたい心境で、寒風をおしてのプレーとなります。こんな時、終わった後、風呂に入ると、芯から冷えた体が暖まって、生き返ったような気持ちになります。帰りの道の途中の温泉に入れば、これは天国です。内地では12月の忘年杯がその年の最後の公式競技ですが、北海道では10月にラスト・コールド杯でその年を締め括ります。そして、とうとう、雪が積雪となり、コースがクローズとなると諦めがついて、クラブを磨き、ゴルフ・シーズン

第三の人生

田中謙一

「平成三年一月某日」

雨戸の隙間から差込む日の光と襟元の寒さで目を覚ます。こしばらく続いている西高東低の気圧配置はまだ続きそう。昨晚担当地区の地図を検討しながら作成した行動計画を反芻しながら、今日は何時頃出ようかと思索する。東芝を昨年十一月末に定年、ただちに第一生命に入社、約二ヶ月ようやく人様の玄関のドアを抵抗なく開けられるようになったが、仕事の方はまだ半人前、心の隅に巣食っている「第三の人生」だから思うがえを振り払って今日も一日頑張ろう。

「平成三年七月某日」
今日も殺人的暑さである。熱気に包まれ照り返しのきびしい路上には町中というのに人影もまばらである。こんな時歩き廻っているのは野良犬と我々外勤の者ぐらい、タオルを絞れば水がたりたり落ちる。なんの因果でこんな仕事を始めたのかと悔まれる。今日にはもう止めた万歩計も一万三千を越えたことだし、時計も一時半をまわっている。今日のような炎天下、グリーンの戦闘服に半長靴、汗にまみれて野外で過ごした頃には、格別気にもしなかった暑さを今では骨身にしみる。

以上は厳寒と酷暑のある一日を点描したものであるが、この様な外勤業務に従事されている信友の方も居られることと思いますが、私もこのたび保険の外務員として仲間入りさせて頂きました。私の名刺の肩書は契約業務士となっております。仕事の概要は「生命保険契約の前・後に該当する方と面談し、所要の情報を本社と面談すること及び「保険金(入院時に支払われる給付金等をふくむ)等請求があった時、その妥当性等を調査・報告する」ことに大別されます。勤務は完全フレックス・タイム制です。B・E・Iである調査依頼票は、自宅に設置されるFAXで送付される他、月に二回本社に出社して受領する資料に基づいて月間の単位で実施いたします。この業務は特に個人のプライバシーに係る点が多いため、第一生命でこの業務を担当している者は、警察出身者が主体でしたが、最近では自衛隊出身者も多くなり現在では過半数を占めるようになりました。その数も全国で約三百名、東京地区で約六十名の多きに達して居ります。比較的に同じ経歴を持つ者の集まった職場であるためか人間関係の煩わしさもなく、定着率は良好のようです。私が入社する要因の一つになったのも、人間関係の煩わしさがないこともありましたが、大変自由度のある勤務形態であること(好きなゴルフを平日に遠慮することなくできる)、通勤を伴う(一日約一万歩位歩く、ゴルフグラウンドの距離)、日々新しい人との出会いで適当な緊張感が得られる(ボケ防止)の三点が気に入りました。最近新聞雑誌を賑わしている「トリカブト事件・三浦事件」等により代表される保険金の不正請求が増加して居りますが、これも我々の調査対象となり、かなりのベテランが担当することになります。新人でもすぐに馴れるような質のよい調査も出来るようですが、深い洞察力と観察力を要するため年功のいる仕事でもあります。練度向上のための教育も充実しており、詰め切りでの研修もたびたび行なわれます。日本に近代的生命保険が創設されて約百年、現在では多数の方々が加入されており、昨年一年間の支払総額は約四万七千件、金額二千九百億円です。又入院等に係る給

付金は約四万六千件、金額六百七十二億に達して居ります。金額では保険金が多い訳ですが、件数では給付金が圧倒的に多く毎年一割ずつ増加しており、生命保険という病気・けがの保障を含めた生活保障と云った方が、ふさわしい時代になってまいりました。こんな状況から業務士の仕事も年々増加し

九州でフルムーン旅行

青木 猛

ており、昨年度は千三百二十件の不正請求を発見し、保険の「公平性の原則」に寄与しております。入社後十ヶ月を経過し夢中で過した期間もすぎ、ようやくあたりの状況が少しは見えるようになり、概ね期待どおりの日々を過ごさせていたに居ります。

定年退官後早くも満六年、始めの三年間は、全然未知の新しい仕事で、自らの勉強と所定の保険契約を得るための夢中状態でした。その後は、まずまずの安定した契約が得られるようになり、伴が結婚して初孫もやがて満三才となり、私は半生を生れ、今年末退職を迎えます(妻は明年春)。この年代になりますと、同窓・同期会等の案内が多くなり、その一つにひよどり会(第十四期幹事昭和三十年十二月前川原卒業)があります。今は全員OBですが、昭和五十四年以降毎年各方面回りて総会と観光旅行を開催、平成三十年十二月一日、九州指宿で第三十三回会をやりました。六回目からは夫人同伴も認められ、私共は平成二年秋、岡山から、できたての瀬戸大橋を渡る香川への観光を始めてフルムーンでやりました。今年も六月にまとまった案内が入り、夫婦参加のフルムーン旅行と決めてましたが、期間は三泊四日とし、初日は別府温泉に泊り、二日目は九州東岸を日豊本線の下り指宿温泉から九州西岸を一日、四日目は太宰府天宮宮参拝、博多観光後新幹線で真直帰宅と予定を組み、九月末J・Rの旅行センターに申込み、旅行最終日一ヶ月前にすべて予定通りの切符購入ができました。旅館の方も、指宿を除く二分分を指定し申込みうまくとってくれました。以下は、この二回目のフルム

ン旅行の思い出のあらましです。初日の別府温泉のホテル清風は、駅前通り突当りの海岸にそびえ立ち、その十階の和・洋二室の部屋に泊りましたが、その夜は寝入りばな暴走族で起され、フロントや別府警察に直接電話するやら一騒ぎしました。警察の当直は、今、各署から現地に回っています。この返事、五・六台のバイクらしいが、逐次爆音が減り約三十分位でびたり静かになり安眠に落ちました。翌早朝又も爆音に起され、さすがこれも十数分で納まり、すく朝風呂に浸りました。別府の警察も若者もよく訓練されているなと感じました。

二日目は、別府から指宿までの汽車旅でした。山が海岸に迫ってトンネルが多く、戦時中の昭和十七年八月、私共一家が一足早く満州から引上げ(祖母危篤のため一時帰国)の際、朝鮮半島を縦断した時の山がのちの様に似通ったものを感じました。延岡、可愛岳やその奥に九州山地の連山が仰がれました。明治十年の西南の役では、この地での戦闘に破れた西郷が「天運尽きたり、我ら事のなすべからざるをあきらめたれば、諸隊共に進退は勝手なされよ」と申し渡し、自ら薩軍数百名と共に可愛岳をよじ上り、九州山地縦断の逃避行二週間して鹿児島城山を急襲占領した。時代は変わり、鉄

路五時間西鹿兒島に着きました。その途中の桜島の景観が見事で、北から遠く西へと視点が変るのに応じて桜島は、始めは小さくやせて優しおぼろに、段々はつきり大きく太って、鹿児島からは山肌もきつかりと重々しく目近に迫って誠に雄大そのものであります。三日目は、朝から貸切りバス二台で、焼酎工場、知寛武家屋敷・特攻平和会館等を巡りました。「帰るなき機を操りて征しはや、開聞よ母よ、さらばさらば」との歌が刻まれ、隊員の勇姿と向い合っ立つその母の像を仰いで会館の中に入り千余名の若武者の写真とその遺書、遺品を見ながら説明を

聞きますと涙を禁じ得ませんでした。その夜は二日市温泉の大丸別荘に泊りましたが、洋室のほかに二室温泉風呂付、二食とも部屋に上げてくれ心身ともにリラックスできました。昭和天皇、現代天皇御宿記念植樹の松があり、さこそとチップもはずんでやりました。此度のフルムーン旅行の費用はオールグリーン車で旅費六万七千七百円(二回目から割引五千円)宿泊代三泊で約二万円、土産、タクシー代等合計しても約二十万円で済みまし。割安でデラックスムードで若返りが楽しめるフルムーン旅行を、皆様にも心からおすすめ申し上げます。

私の生涯スポーツはテニス

川原 道雄

早いもので、再就職して三年経過した。会社にはゴルフをする人が多く年に数回社内コンペをやっている。競技だけでなく、参加者を三人一棒にして競馬と同様、券を発行する。私も時々あいにく馬券を求める事があるが、当たりの例が無い。

会社に入社して、成程ゴルフは、営業活動上必要なのではと思っただから、よく会社の人や、先輩・同僚から「君もゴルフをやれよ」と勧められると、断るのに苦痛を感じる。私がゴルフをやらない理由は何かと言っても、小さい頃からテニスが好きで、今でも余暇はテニスに費やしておりゴルフの練習に当てる余裕が無いことである。

また、静止している小さな球を打つのが結構難しく、グリップの握り方とスイングの要領が窮屈でぎこちなく、地面を叩いてクラブを折りそうぞう空振りばかり、ようやく当てもとんでもない方向に飛んで行くので、俺には不向きだと断念した。私に熱心にゴルフを勧める人が

から卓球の要領で打つと、比較的控制が良く、勝つ事が多かった。で、だんだんテニスだけやる様になった。中学の頃、近くの高校で部員達がテニスコートを造成していたので仲間と手伝いに行ったり、テニスをやるならこの高校へと入学した。本格的な練習を始めたのはこの時からである。高校では芽が出なかったが、大学の時には優勝の喜びを知る様になった。三・四年と西日本四国地区学生選手権で、九州チームに選ばれ団体優勝し、四年の時は個人戦でも優勝した。この時は、出場組数が二百数十組の中で優勝したので一際印象に残っている。一般の部で、団体の選手となつたのもこの年であった。自衛隊に入隊してからも続けたが、学生時代の様に厳しい練習でなく楽しんでやるものになった。通校時代は、横須賀地区での優勝や官公庁大会での優勝を味わった。また、勤務地を變る毎に、その駐屯地のテニスクラブに入れて貰い、地方のクラブにも入れて貰って、多くの同好の士を得た。お陰で今でも札幌とか仙台に出張すると、テニスと酒で歓迎してくれる。定年退職後に坂戸に越して来て、クラブに入ったのが廿年で上手な人がいて彼とペアを組み試合に出る様になってから、試合に勝つ為に学生時代の様に真剣に練習する様になった。県大会で四本に入ることもあり東日本、全日本に出場している。

今年の四月坂戸市スポーツ功労賞を受賞した。スポーツ振興に寄与した功績かなと思つて受賞式に臨んだが、優秀選手賞の方で、中学生や高校生の若い人達に混じって最年長で受賞した時には、何となく恥じかかった。県大会以上の大会で上位に入賞した人に与える賞であり、たまたま選ばれたものと思う。今後健康に留意しながら生涯スポーツを楽しみたいと考えているが、今度は全国大会で頑張りたいと思っている。

信友会 新入会員名簿

3. 7. 1~3. 10. 31

氏名	現住所(電話)	勤務先(電話)	最終所属
い 石渡 常夫	〒239 横須賀市久里浜7-19-8 (0468-35-3031)	電気興業(株) (03-3216-1671)	通 校 (3. 3. 6)
岩田 享禧	〒862 熊本市帯山5丁目9-16 (096-383-3740)	三菱電機(株) (096-242-0151)	8 通 大 (2.10. 5)
え 江口 博保	〒196 昭島市松原町3-6-21-506 (0425-46-3672)	富士通(株) (03-3216-3211)	13 師 団 (3. 7. 1)
か 上村 哲由	〒229 相模原市西大沼1-16-6 (0427-55-9773)	ニコー電子(株) (045-474-3251)	通 処 (3. 4. 1)
川口 勝則	〒238 横須賀市太田和1-47-1-402 (0468-57-6470)	川口運送(自営) (0468-57-6470)	通 校 (3. 7.18)
河野 貞三	〒165 中野区江古田4-9-15 (03-3386-5511)	㈱アステック (03-3863-1323)	通 処 (3. 3.31)

氏名	現住所(電話)	勤務先(電話)	最終所属
こ 小林 英平	〒370 高崎市中居町492-4 (0273-23-3258)	(社法) 高崎法人会 (0273-63-4526)	相模原 業 (3.10. 9)
小林 洋	〒463 名古屋市中区大森1-203 (052-799-1340)	㈱太陽神戸三井銀行名古屋支店 (052-582-5311)	中 方 通 群 (2. 8. 8)
し 柴田 三男	〒862 熊本市健軍町2484-554 (096-382-8523)	医法・富田会成仁病院 (096-380-7011)	西 方 通 群 (3. 1. 3)
は 長谷川 剛	〒249 逗子市池子2-19-1524 (0468-73-7193)	富士通(株) (044-433-5392)	資 統 隊 (2.11.19)
ひ 弘中 一寿	〒192 八王子市別所第2-504-03 (0426-77-4420)	日本無線(株)三鷹製作所特機2部 (0422-45-9632)	資 統 隊 (3. 8. 1)
む 向谷 義顕	〒335 戸田市美女木2-22-8-104 (0484-21-0908)	㈱日立製作所 (03-3763-2411)	通 処 (3. 3.31)
や 谷内 一正	〒120 足立区千住関屋町17-15-1-613 (03-3870-7403)	シャープ株式会社 (07436-5-1521)	技 本 (3. 8. 1)
山崎改一郎	〒939 富山県西砺波郡福岡町183-01 (0766-64-2249)	㈱日宝販富山営業所 (0764-42-2151)	金 沢 業 (2. 8.27)

名 簿 の 修 正

(下線の部分)

3. 10. 31現在

氏名	〒	住 電 話 番 号	氏名	〒	住 電 話 番 号
あ 阿久津百快	739-22	群馬県佐波郡東村東小保方2758-3 (0270-62-4230)	か 蒲池 秀夫	816	大野城市山田2-14-14 (092-674-0491)
青木 馨	176	東京都新宿区百人町3-1-3, 1503 (03-3360-1420)	川路 幸徳	179	東京都練馬区北町5-11-14-602 (03-931-0218)
青木 茂	367	埼玉県本庄市見福2-16-6 (0495-22-6888)	川向 弘	238	横須賀市衣笠栄町4-4 (0468-52-1374)
秋田 裕	236	横浜市金沢区西菜2-4-10 (045-701-0553)	工藤 重民	006	札幌市手稲区西宮の沢1条4丁目253-24 (011-682-8625)
朝倉 勇	064	札幌市中央区南24西9丁目1-20-706 (011-511-6738)	こ 小島 信夫	350	埼玉県川越市増形596-23 (0492-46-8696)
安藤 公一	850	長崎県小島1-2-1-101 (0958-22-4844)	後藤 哲	061-22	札幌市南区藤野5条8丁目462-4 (011-592-5870)
い 生駒 卓也	246	横浜市瀬谷区瀬戸3丁目48-2 (045-802-8578)	国府田 諒	330	埼玉県大宮市南中丸360-11 (048-683-3029)
生駒 勝	208	武蔵村山市三ツ木1407-1 (0425-60-0284)	高祖 誠	070	旭川市春光5区1条1丁目282-63 (0116-53-3825)
池田 善苗	734	広島市南区堀越3-7-12 (082-284-1532)	さ 佐々木新五	157	東京都世田谷区成城8-22-1サクラビ成城303 (03-3789-0721)
石山善一郎	939-23	富山県婦負郡八尾町角間74-4 (0764-64-2384)	佐々木新平	989-61	宮城県仙台市青葉区水の森1-10-20 (022-233-4778)
今村 敬爾	302-02	筑波郡谷和原村稻の台3-6-7 (0297-52-6283)	佐々木武郎	960	福島市本内字南郷二16-3 (0245-35-7423)
う 上田 愛彦	225	横浜市緑区荏田北1-6-10-203 (045-911-0387)	佐々木利夫	981-31	宮城県仙台市泉区歩坂町42-5 (022-373-1819)
植木 穰	357	所沢市久米1657-58 (0429-24-5948)	佐藤 行男	070	旭川市4条13丁目左五号養生堂内 (0166-23-1783)
植原 弘	253	神奈川県鎌倉市富士見町4-24 (0467-86-8208)	佐藤 節郎	330	大宮市寿能町2-216-2寿能ハイツ2-103 (048-644-7948)
内田 久夫	336	埼玉県浦和市白樺4-20 1-1-106 (048-682-3990)	佐藤 忠	285	千葉県佐倉市宮の台5-17-10 (0434-61-4652)
槍田 明	331	埼玉県大宮市大成町4-777-1 (048-665-1571)	坂尾 義弘	351-01	埼玉県和光市白子1-2-23ビュバレー和光301 (0484-67-2744)
浦江 幸彦	336	埼玉県浦和市常盤7-6-11 (048-832-9419)	坂本 八朗	597	大阪府貝塚市二色4丁目19-4
浦底 庶	899-14	鹿児島県出水市東町警署2271 (0995-86-1088)	佐見 勝	819	福岡市西区福重4-3-32 (092-881-7338)
え 江口 一之	861	熊本市沼津3丁目9-88 (096-367-0098)	し 柴崎 志信	983	仙台市若林区白萩町18-6 (022-284-0347)
お 小口 誠男	196	東京都昭島市つじが丘2-5-19-702 (04-2546-1425)	島田 国司	331	埼玉県大宮市西新井38-3-11 (048-624-0220)
小田 勝亮	004	札幌市厚別区もみじ台東7-4-10 (011-897-7212)	島田 誠二	493	名古屋守山区新城13-20中新田ビル306号 (052-791-5336)
小田 三郎	249	逗子市桜山1-9-8 (0468-72-3881)	島貫 延吉	981-11	仙台市太白区西中田5丁目19-2 (022-241-3658)
尾上 通夫	899-02	鹿児島県出水市西出水町310 (0996-62-9950)	下井平三郎	194	東京都町田市つくし野3-23-4 (0423-96-0965)
越智市三郎	344	埼玉県春日部市新方袋1300-58 (048-754-8675)	正村 菊雄	336	埼玉県浦和市東中町31-1 (048-881-0324)
大久保 喜一郎	273	船橋市海神6-2-20 (0474-37-8141)	神場 實	562	大阪府堺市坊島3-2-7 (072-721-1948)
大久保 博	165	東京都中野区野方2-10-2-109 (03-5380-0335)	す 杉崎 意市	344	埼玉県春日部市植根306 (048-752-6464)
大山 義一	331	埼玉県大宮市南引町2-111-3 (048-665-1657)	杉本 泰隆	331	埼玉県大宮市大成町4-319-4 (048-667-2612)
鬼木 里志	814-01	福岡市城南区田島2-12-28 (092-821-2552)	鈴木 猛	343-01	埼玉県北葛飾郡松伏町大字松伏1624-14 (0489-91-8682)
太田 公造	314/01	茨城県鹿嶋市神栖町神栖2-1-37 (0299-92-1446)	鈴木 恒雄	179	東京都練馬区北町2-30-20 (03-3932-3312)
か 加藤 光	981-31	宮城県仙台市泉区歩坂町27-11 (022-372-5318)	鈴木 正臣	244	横浜市栄区飯島町1773-32 (045-891-0275)

氏名	〒	住 電 話 番 号	氏名	〒	住 電 話 番 号
す 鈴木 幹夫	666	兵庫県川西市南花屋敷4-9-9 (0727-58-7558)	ひ 平沢 泰三	981-12	宮城県東市取市大手町4-18-5 (022-384-2219)
せ 関口 武	331	埼玉県大宮市三橋5-1592 (048-624-5438)	平山 義夫	982-02	仙台市太白区茂庭台5丁目2-35 (022-281-0335)
そ 蘭田 英雄	331	埼玉県大宮市南引町2-443-2 (048-664-0946)	ふ 藤井 成美	753	山口市矢原865-12 (0839-23-3155)
た 田坂 善重	178	東京都練馬区東大泉6-40-7 (03-3922-2668)	藤倉 晋	179	東京都練馬区北町7-12-6 (03-933-0593)
田村 晃一	338	埼玉県与野市本町東4-30-8 (048-854-4396)	藤原 義雄	983	仙台市宮城野区福室字内手前1-10-8 (022-258-1309)
高木 威敷	186	東京都国立市中3-6-2 (0425-72-0425)	古河 邦夫	969-34	福島県河沼郡河東町大字金田字村前14 (0242-75-2865)
高井利津一	330	埼玉県大宮市蓮沼936-58 (048-683-2294)	古谷 清	744	山口県下松市笠戸島深浦西1214 (0833-52-0167)
高倉 重治	331	埼玉県大宮市南引町2-187-2波谷ハイツ201 (048-665-8599)	古屋 良広	331	埼玉県大宮市指扇669 (048-624-0160)
高橋 英夫	331	埼玉県大宮市別所町44-46 (048-666-1809)	ほ 堀井 安夫	939-05	富山県水橋町曲337 (0764-78-3543)
高橋 良則	742-15	山口県熊毛郡田布施町麻野奥145-7 (0820-52-3562)	ま 松尾 雅史	241	横浜市旭区今宿東町832-1-27-306 (045-955-0414)
立花 喜七	179	東京都練馬区早宮1-48-12 (03-3991-6693)	松本 秀	240	横浜市保土ヶ谷区月見台11ダイナマシオン203 (0462-34-8546)
谷川 啓吾	981	宮城県仙台市青葉区水の森1-10-20 (022-233-4778)	園岡 勲	664	伊丹市東野4-36-8 (0721-84-1276)
玉井 昭英	174	東京都板橋区小豆沢2-27-9 (03-3969-0796)	み 水間 康夫	179	東京都練馬区錦2-21-14 (03-3934-2488)
丹野 泰藏	330	大宮市堀崎町261-2 (048-683-1831)	溝井 進	994	山形県天童市北久野本2-7-31-5 (0236-93-8712)
つ 塚田 宜伸	338	浦和市西郷4-7-1-201 (048-866-1968)	溝口 寿茂	207	東大和市南宮3-15-9 (0425-64-6525)
綱井 利幸	838-01	福岡県小郡市三沢4225-128みくにの東団地15-10 (0942-76-8208)	宮地 孝	239	神奈川県横浜須賀野二葉1-32-7 (0467-41-5513)
と 富松 丞侍	818	福岡県筑紫市立明寺115-7むさし丘団地70 (092-925-0323)	宮本 進	089-06	北海道中川郡幕別町字猿別153 (0155-54-2751)
な 中島 悟	811-02	福岡市東区美和台3-1-4 (092-606-3405)	む 六浦 武	415-03	静岡県賀茂郡南伊豆町下智茂598 (0558-62-2052)
中野 健三	038	青森市大字浪館字泉川29-5 (0177-67-3698)	村居 秀一	600	京都市下京区東洞院六条下ル (075-357-7273)
中武 敬秀	004	札幌市豊平区南2条2-5-10倉庫メディアカルビル303 (011-881-1814)	村上 保	981-31	仙台市泉区歩坂町17-7 (022-373-9104)
中村 幸平	273	船橋市本中山1-6-12中山山ハイム201 (0473-33-3563)	も 毛利 清喜	285	佐倉市王子台2-3-4 (0434-62-7680)
鍋島喜八郎	331	埼玉県大宮市日進町1-838-3 (048-664-0481)	本石 英彦	849-01	佐賀県三養基郡中原町原古賀5192 (0942-94-4610)
に 西原 允之	336	浦和市白樺1-13-22 (048-861-2366)	ゆ 柚木 文夫	275	香川県高松市清瀬6-11-2 (0474-51-6748)
西山 俊三	881-32	福岡県宗像郡福岡町若木台3-7-6 (0940-42-1541)	や 矢野 貞徳	344	埼玉県春日部市下郷田322-2 (048-754-8112)
新崎 英夫	356	上福岡市大原1-13-22 (0492-63-7244)	山口 保馬	849	佐賀市久保原町川久保3613-1 (0952-98-3492)
の 野田 光明	849	佐賀市高木瀬東4-3-7 (0952-30-9213)	山田 泰治	330	埼玉県大宮市堀の内町1-56 (048-662-5310)
野村 明	330	大宮市東宮下1349-26 (048-683-5911)	山田 敏雄	226	横浜市緑区中山町664 (045-934-6397)
は 波多江興夫	819-11	福岡県糸島郡前原町志登139-2 (092-322-4252)	よ 横山 祥一	981-31	仙台市泉区歩坂町24-7 (022-372-5321)
長谷川正男	336	埼玉県浦和市東中町25-5 (048-881-0819)	吉田 俊光	331	埼玉県大宮市日進町1-414-2ハイッコーヤ103 (048-664-1066)
花蘭 利治	004	札幌市厚別区もみじ台東6丁目3-12 (011-897-1259)	吉武 弘人	331	埼玉県大宮市高木123-28 (048-624-1661)
原田淳太郎	389-01	長野県北佐久郡軽井沢町野沢原1799 (0267-42-6844)			
ひ 日向 保雄	251	神奈川県横浜市島羽1-3-37 (0466-35-7615)			

第四師團司令部通信課

灼熱のかまりとなって流れ落ちる火砕流、雨のよに振り注ぐ噴石・降灰、いつ終るとも知らない不気味な火山活動。今回の雲仙岳噴火に伴う災害は、そんな自然の恐ろしさをまざまざと見せつけた。死者・行方不明者四十二名の高い犠牲者を出し、多くの住民に避難生活を強いている雲仙普賢岳は、何時その活動を終るのか。

二、四師行災命発令

送隊、西方通信群、第四通信大隊の三個部隊であり、その任務は、映像、送隊隊はへりから撮影したりアル・タイム映像の提供と技術支援等、西方通信群は西方総監部へ災害派遣現場間の回線構成と写真支援等、第四通信大隊は師団司令部へ災害援送部隊間の回線構成と写真支援と通信補給整備及び画像伝送装置の運用等である。

二、四師行災命発令

市LOに電話FAX設置、師団司令部第二・三部、第十六連隊二、三科直通回線の構成等を実施した。通信構成線の細部について検討を実施していた矢先の六月三日夕刻、テレビのテロップが雲仙普賢岳から大規模火砕流が発生したことを告げた。第十六連隊は、県知事の要請を受け一部の部隊を出発させた。師団としては、予め決められていた偵察隊・保安警務隊・衛生隊等が直ちに出發することとなり、それに伴い無線（直轄偵察系）、多重（福岡・島原城回線）を構成することが決まった。こうして四師行災命第一一一号が十八時三十分發令され、第四師団は、

構成した。現場の指揮をとった垂門一尉は、当時の状況を振り返って、「とにかく先の読めない状況の中、全ての回線が重要であり状況を要していた。三日間ぐらいはほとんど寝ていなかったが、眠いと言うことさえも忘れて全員が、火のたまのように一丸となっているのを遂行した」と語っている。こうして、当初の有線及び多重無線組織を四日七時二十分構成完了というより毎時拡充・変更を繰り返した。六月十一日第四師団島原炎災被害派遣隊の進出に伴い、通信は比較的落ち着いた状態になった。

なお、九月末日までに作成した

声)から困難であり接続はできなかった。なお、最多時のNTT回線利用状況は、加入電話一十台携帯電話一五台、専用線一十台線(野外電交加入八回線)である五、画像伝送システム

今回の災害派遣における各種画像伝送装置の活用は、大きな特色の一つであった。使用した器材は映像伝送隊が装備する「映像伝送装置」、装備開発実験隊から管理換受けた「簡易画像伝送装置」、通信団写真真中隊から管理換受けた「超高速感度カメラ」、その他皇原市、警察等が準備した画像伝送器材であり、これらを互いに接続しシステム化し有効に活用している。

じ情報が得られるようになつた。これだけのシステムが整備された理由は、長崎県島原市、自衛隊等が等しく普賢岳監視の有効な手段として画像情報的重要性を認識したためであり、通信課総括班長が中心となり、自衛隊、市県等の要求を取りまとめて関係業者と綿密に調整を実施し、ニーズにお

雲仙・普賢岳監視システムの概要

この災害に対して第4師団は、長崎県知事の要請を受け第16普通通信連隊を基幹とする部隊を派遣した。その後の状況は新聞・テレビ等の報道でご承知のとおりである。今回は、災害派遣実施の実状を通信的な観点からまとめた。

なお、今回の災害派遣に参加した通信科部隊は、東方通信群映像伝

五月に渡る雲仙・師範岳の活動が緊迫の度を増し、師団は「①D市、HQ、第16連隊、長崎県、島原県市、気象庁、警察等との間の情報連絡通信の事前準備、②初動通信の確保、③各被災実地脅威に対応する通信」を考慮して通信計画の見直しに着手。この間、師団司令部

第一部、第16連隊本部及び島原県

災害派遣の態勢に移行した。

三、通信組織の構成

無線系は、すぐに構成できたが、多重無線は、連隊指揮所である島原城ともう一ヶ所集結地にも必要ということであったが、そのもう一ヶ所がなかなか決まらなかった。十九時三十分ようやく集結地が深江町民グラウンドと決まり、通信大

通信諸元は、回線図一十二枚、電話番号表一三十枚、多重無線諸元一十枚であり、最多時の使用器材数は一、電子交換装置一三台、搬送端局（中継）一十台、野外電話機一、百二台である。

四、NTT回線の利用

部外通信力ほどの程度利用できるとも確実な裏付けはなかった。

映像伝送装置は、主として上空からの映像をリアル・タイムで伝送することに使用している。報道機関へも提供しており、テレビ画面上部に「陸上自衛隊」のテロップを見られたと思うが、それが映像伝送隊の提供した画像である。他の装置は、地上の定点からの継続的監視に使用し、同じリアル・タ

たシステムを逐次整備した。この過程において映像伝送隊に全面的な技術的支援を頂いた。六、おわりに

現在までの災害

て訓練・反省等をま

まず、運用面であ

とめてみる。
が、当初の

器材の障害についてはほとんど頭を痛めなくて済んだことは非常に助かった。一方、火砕流の監視に使用している地上レーダー1号は、巨体使用と高温等により度々故障が

[illegible]

た。九時四十三分背振中継組（無線、搬送各一個組）が、二十時三十五分島原合連（第二中隊長以下二十六名、信務二個組、電話一個組、搬送二個組、無線二個組）が福岡を出発した。大隊長以下の見送りを受ける中、各車両に取り付けた「災害派遣」の看板が浮き上がるように隊舎の明りに照らされ、一人一人の顔には緊張と責任を漲らせて島原に向かった。

派遣通信部隊は、二十三日五十五分島原城に到着。〇時五十分には、連隊長回線を構成した。当時の島原は、部隊の活動が今後どうなるかほとんど予測できない状況だった。そのような状況に連携した通信の確保は、困難を極めた。次々に集結する部隊、どの部隊が何処に進入するのか、構成する回線は？等々いつ起こるか分からない火砕流の脅威の中、積極的な情報収集と派遣部隊との緊密な連携により、連隊ＣＰ、部隊集結地市役所ＬＯ、ヘリポート等の回線を

師団通信能力にも限界がある」と考え計画段階から部外通信の利用について検討していた。

NTTの利用の要領としては、加入電話、携帯電話及び専用線として利用した。専用線は、基地交換の内線延長及び師団電子交換装置の内線延長（今回初めて実施）として使用した。諫早・島原NTTは、非常に好意的でこちらの要求に対してはほぼ百応允えてくれた。専用線を使用する場合、野外電交と野外電話機との接続において、全ての専用線が有線延長ではないことを考慮する必要があった。途中PCMの多重無線で延長された内線で、信号が片方向しか流れない状況が起こった。いろいろな検討した結果NTTがODトランクを改造して両方向からの正常な使用ができるようになった。また、今回、試験的に、専用線を二回線取得し、野外電交と符号変換装置を接続して十回線延ばそうと試みたが、市内におけるNTT規格（音

今回派遣の重要な任務の一つである火山活動状況の警戒監視。情報収集のため、第四偵察隊が通信料物品の暗視装置、地上レダ装置等を使って二十四時間態勢で火砕流の監視を続け、十六連隊も常に偵察を実施しているが、効率的な監視により価値の高い情報を入手するために画像伝達装置への要求が高まってきた。当初は、簡易装置で画像伝送装置を島原工業高校屋上（島原城の間に設置し、普賢岳を北東方向から監視する態勢を取ったが、以後、超高感度カメラを夜間監視用に設置し、昼夜間継続した監視の態勢を整えた。その後監視カメラの数・設置場所等はその時の必要性により変更されたが、画像情報は、災害派遣隊指揮所、報道センター、島原市災害対策本部、長崎県島原振興局、島原警察署、島原消防署、九大地震火山観測所と逐次分配先を増加したなお、現在は有線テレビと接続（島原市経由）し一般の家庭でも同

実施できた理由は、二中隊長として現地の指揮と併せて通施させ、現地の要とともに、通地の状況を正確に信用運用ができたことしながら、その後通信課が現地に進とは、様々な状況え反省をしている。

次に、部外通信T回線の活用は、極的な協力と良好り今回の通信組織NTT回線で補完した。但し、NTT更に勉強する必要がある。器材面について感じたのは、JMR C 21等の平均が四ヶ月以上の長きなトラブルもなっていることである。の交換等を実施し

島原合通長を
に進出、合通
課の業務も宅
に迅速に対応
課としても相
握し先手の通
にある。しか
月十一日まで
しなかったと
あったとは言

としてのNT
原NTの建
人間関係にと
重要な部分で
ることができ
通信について
痛感した。

今回頼もしく
CIT 20、
団現有装備品
にわたり、大
活用してくれ
定期的な器材
いるが、主要

の配置が必要であり、業者による外注整備を福岡で三回、現地昌富で二回実施した。装備品以外の要材では、電話FAXが、部外との情報交換に使用でき、正確かつ大量の情報が送受できる点で有効であった。それに忘れてならないのが、画像伝送装置関連器材であるが、カメラ・伝送装置等の有効性は十二分に実証された。今後この硬器材の師団クラスへの装備化の必要を痛感した。

最後に、今回の災害派遣にあたり、陸幕 西方、通信団、通信学校、補給処、東方通信団、西方通信群、装備開発実験隊等から多々の御支援を頂くとともに、信友会会員各位の皆様からの暖かい御激励を頂きましたことに深く感謝申し上げる。また、この任務を継続するにあたり、本活動が今後の日衛隊に対する評価に大きな影響を及ぼすことを肝に命じ既設の枠に捕われない積極的な通信任務を實施したい。

雲仙・普賢岳監視システムの概要



